

色に注目して遊ぼう

対象:2歳児

ねらい:色に気付く

活動の概要

1. 部屋の中央にカラーブロックを山にして置き、「片づけて」と声を掛けた。部屋の四隅には赤・青・黄色・緑の画用紙を貼り、その前に見本として同色のブロックをいくつか並べた。

子どもたちは見本を参考にしながら片づけを始め、色を意識して片づける姿や、近い場所にまとめて置く姿など、それぞれの姿が見られた。



2. 片づけが終わると運転手役が登場し、「乗り物を作ってほしい」と伝えた。子どもたちはカラーブロックを使い、思い思いの乗り物を作った。一色にこだわって作る子、上下で色を変える子、友だちの色の組み合わせに興味を示す子など、色への関わり方はさまざまであった。



保育者の関わり

保育者は基本的に見守りの姿勢を取り、活動を主導したり色について教えたりすることはせず、子ども自身の気付きや選択を大切にした。

友だちの作品を取ろうとしてトラブルになった場面では、「友だちのものを取ってはいけないよ」と伝え、行動の線引きのみを行った。



子どもの姿・学び

これまでの活動では、色に着目して作る姿は多くなかったが、色分けを意識した片づけを経験したことで、その後の乗り物作りの中で色に着目する姿が見られるようになった。

一方で、色を強く意識せずに作る姿もあり、これは2歳児として自然な姿であると捉えている。活動を重ねていく中で、色を意識している友だちの姿を見たり真似したりすることで、徐々に気付いていくと考えられる。

友だちとのやりとりの中で見られたトラブルも、色や作品へのこだわりが表れた姿であり、自分のイメージを大切にしようとする気持ちの芽生えとして受け止めた。



振り返り・今後の展開

本活動を通して、色に着目するきっかけをつくることができたと思う。今後すぐに全員が色を意識して活動することを求めるのではなく、自由に遊ぶ中で自然と色に気付ける環境を継続していきたい。

今後の活動の中で、ところどころ色に着目する姿が積み重なっていくことを期待している。